

たんぼでも、なんでも、かまわずに、どんどんかけだしますと、かえるたちは、あとからおしあい、へしあい、おっかけます。ひめは、いきがきれて、あしがつかれて、しにそうになりましたが、それでも、かえるたちは、おいけるのをやめません。そのうちに、ひがくれて、ひがしのやまから、まんまるいおつきさまが、でてきました。そのおつきさまをみると、おしゃべりひめは、ほっと、ひといきつきました。ひがくれたら、いくらかえるでも、もうおっかけてこないと、おもいましたが、それは、たいへんなまちがいでした。ひがくれて、おつきさまがでると、のはらのほうは、いちめんにかえるばかりが、いるように、があがあとなきこえがして、もう、あしもとにおっかけてきそうです。これは、たいへんと、ひめは、また、やまのほうへ、やまのほうへと、あとをふりかえり、ふりかえり、にげていきましたが、たかいがけのうえにきますと、めのしたに、えのようなうつくしいみやこが、みえてきました。そのみやこは、ほんとうに、えのようにうつくしい、みやこでした。どのいえも、どのいえも、しろいかべに、あおいやねで、そのしたから、あおや、きいろのでんとうが、きらきらと、ひかっています。そのまんなかには、おおきなくろい、てつのおしろがありまして、そのなかから、むらさきのあかりが、まぶしいほど、ひかってみえました。そのうえには、おつきさまと、ほしがひかっている、そのうつく